

経営比較分析表（令和6年度決算）

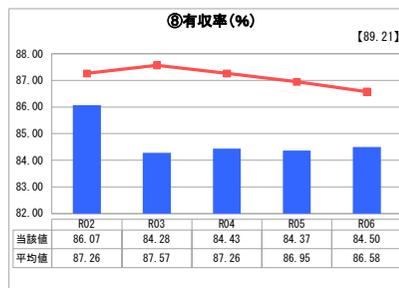
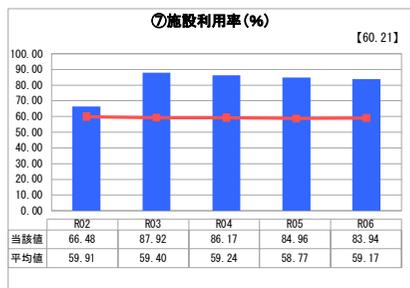
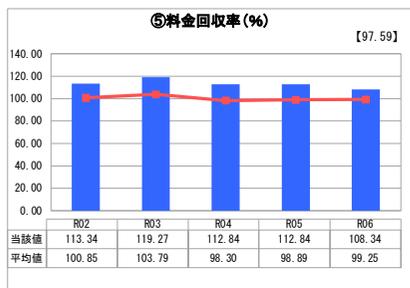
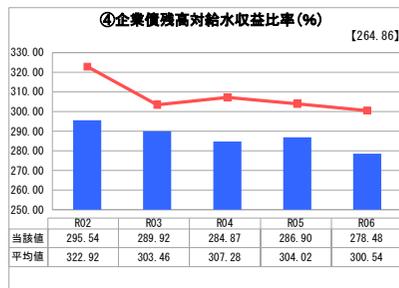
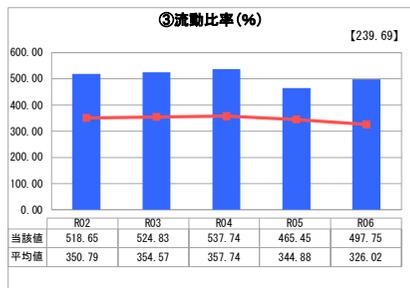
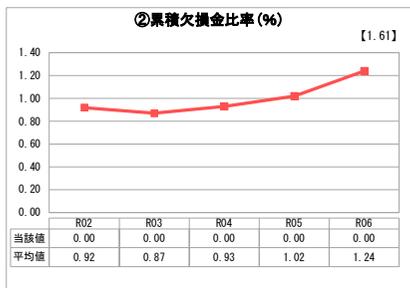
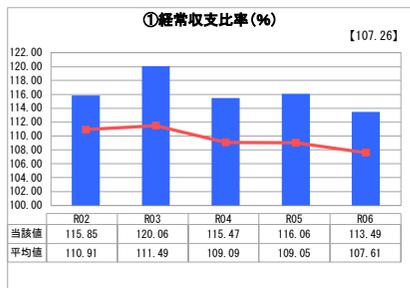
和歌山県 田辺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料(円)	
-	78.64	95.51	2,200	

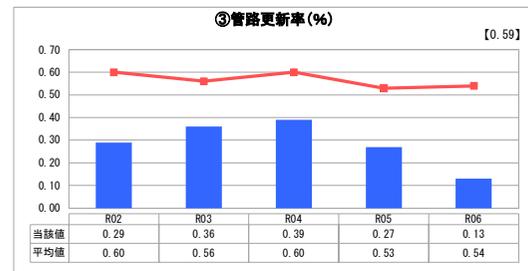
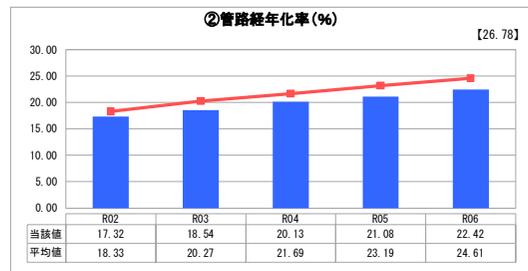
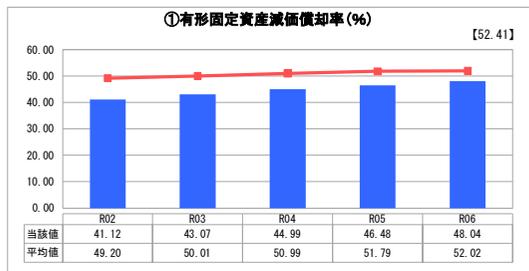
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
67,316	1,026.89	65.55
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
63,764	99.37	641.68

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、100%を超える状況が続いており、給水収益は減少傾向にあるものの、維持管理費や支払利息等の費用を十分賄える状態が続いています。

また、累積欠損金は発生していません。

流動比率は、100%を大きく上回り、平均値と比べても依然として高い傾向が続いており、支払能力が高い状態を維持しています。

企業債残高対給水収益比率は、平成30年4月の簡易水道事業との統合により、簡易水道事業未償還残高を引き継いだことに伴い大幅に増加しましたが、平均値より低くなっています。

料金回収率は、平均値より高く100%を超える状況が続いており、給水に係る費用が、十分給水収益で賄えている状況です。

給水原価は、営業費用の削減等により、平均値より低い数値を維持しており、有収水量1m³に対する費用は低くなっています。

施設利用率は、平均値より高く、施設の利用は高い状況が続いています。

有収率は、前年度と比較して若干改善しているものの、依然として平均値より低い状況であることから、効率性を高めるため、漏水箇所を早期に発見して修理を行うとともに、計画的な老朽管の更新に取り組む必要があります。

上記のことから、経営の健全性については、健全な経営状況が維持されていますが、効率性については、有収率の改善が必要です。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年化率は、平成30年4月の簡易水道事業との統合により数値は改善していましたが、その後再び上昇傾向となっています。

管路更新率は、年度によりばらつきがあるものの、平均値と比べて低い水準が続いています。

上記のことから、老朽化の状況については、引き続き管路更新率の改善が必要です。

全体総括

平成30年4月に簡易水道事業と統合したことにより、給水区域面積が拡大となり、業務量や決算規模が大幅に増加しています。

急速な人口減少に伴う給水人口の減少や、節水型機器の普及等から水道料金収入が減少傾向にある中、物価高騰等に伴う維持管理経費の増加や老朽化が進む施設の計画的な更新なども必要であり、今後の経営状況は厳しさを増すものと予想しています。また、南海トラフ巨大地震等への備えとして現在実施している津波・浸水対策事業等が、今後の経営に大きな影響を与える可能性があることから、明確な経営展望の下、計画的かつ効率的な資本投入による管路等施設の更新に取り組む一方、より一層の経費節減を推し進め、経営の健全性を維持しながら、「安全で安定した水」の供給に努めてまいります。